

令和3年度第3回半田市スポーツ推進審議会議事要旨

開催日時	令和4年2月25日（金）	16時～17時
開催場所	市役所4階 会議室401	
会議次第	1. 開会 2. 中学校部活動の地域移行について 資料1 3. 閉会	
出席委員 (欠席委員) ※敬称略	【会長】加藤博史 【副会長】田中益生 【委員】池田智美、日置さと子、渡邊彩、近藤和昭、岩田洋子、 磯貝雅代、吉戸孝司、水野明英、清水純一、（田村悦子）	
事務局	健康子ども部長、スポーツ課長、スポーツ課主幹 スポーツ課振興担当主査、同事務員、学校教育課指導主事	
次 第	議事概要	
【議題】(1) 中学校部活動 の地域移行につ いて	<p>(事務局)</p> <p><u>中学校部活動の地域移行について、資料1（中学校部活動の地 域移行に関する課題・意見の集約について（案））</u>にもとづいて説明</p> <p>第2回の審議会の資料と委員の皆さんよりいただいた課題・意見等を 集約し、少し肉付けしたものになります。こちらの資料を審議会として、中 学校部活動の地域移行に関する令和3年度の成果物のような位置づ けにできればと考えています。意見等いただければと思います。</p> <p>(加藤会長)</p> <p>委員の皆さんに出していただいた課題や意見が集約されているものになり ます。ご意見等あればお聞かせください。</p> <p>(清水委員)</p> <p>子どもや保護者の皆さんにうまく浸透していくことが先だと思います。こちら から押し付けても、うまく進んでいかないのではないかと心配しています。 地域移行した後、休日の活動が強制とならないのであれば、モチベーショ</p>	

ンにも影響するかもしれないですね。

(岩田委員)

何もないところで議論するよりも、市教育委員会から指標を示してもらうことで議論がより具体的になると思います。地域移行に関する保護者等へのお知らせも含めて、中学校側がどのように考えているか見えてくるとよいのではないかと思います。

(近藤委員)

資料 1 の 3 課題・意見 (2) にも記載がありますが、関係者への理解は重要だと思っています。また、資料 1 の 4 今後の予定にも記載されているとおりに進めていくことができればよいのではないのでしょうか。

(水野委員)

一番難しいことは関係者への理解だと思っています。何か変えることに対して、反対の意見は出るものです。すべての方に理解を得ることはたいへんなことだと思います。国の方針で抽象的な部分もあるので、市としてもなかなか前に進みだすことができない状況でもあるかと感じます。ある程度、トップダウンなり強気に進めていくことも一つの方法かと思っています。また、予算に関係することですが、資料 1 の 3 課題・意見 (3) にある地域スポーツアシスタント登録者の市内スポーツ施設使用料減免はよいインセンティブになると思います。さらに指導者の保険や報酬の金額がある程度具体的になると指導者として手を挙げてくれる人が増えるかもしれません。各種目において、指導者を何人まで受入れ可能であるかも整理しておくといいと思います。

(加藤会長)

指導者に対するインセンティブは必要なことだと思います。

(渡邊委員)

保護者や生徒への理解は大前提だと思います。ただ、この場での議論は意見や課題の集約にはなりますが、ゴールではないと思います。教育委員会等関係する組織が一緒になって議論していく場がなければ、まとまらないのではないかと思います。資料 1 の 4 今後の予定に記載の内容が

重要なのではないかと思うとともに、関係者に理解してもらうためにはどうしていけばよいかを考えていかなければならないと感じています。反対意見は出てくるかと思いますが、出来る限り理解してもらえようやり方を模索していくことが必要だと思っています。

(加藤会長)

この審議会では決定することはできませんが、意見を共有することはできる場所なので、遠慮なくご発言ください。前回の渡邊委員の意見の中で、保護者にとってお金はそんなに問題ではないということがありました。たいへんありがたい話だと思います。受益者負担という観点から、それなりの指導を受けるにあたっては費用が発生するという認識は多少なりとも浸透している状況と判断できます。

(渡邊委員)

学校の先生よりも質の高い指導ができないとなると、費用負担に疑問が出ますが、それなりの指導者が指導することであれば、理解は得られやすいかと思います。

(日置委員)

スポーツクラブは厳しい状況の中で運営しているという現状があります。例えば、市内5中学校長の中で話し合っ決めてもらうことはできないかとも思います。

(池田委員)

文部科学省から今年の5月に方向性を示すような案内が提示される予定です。そちらの提言を待って、市としての方向性を決めていくことでもよいのではないのでしょうか。

(磯貝委員)

トップダウンで押し進めていく方が、右往左往せずにはっきり方向性を示せるかと思います。モデル校を作り、そこで出た課題を解決し、次に繋げていくような進め方が理想だと思っています。

(吉戸委員)

学校としては、そもそも部活動は教育課程外ですので、先生方をお願い

して顧問をやっていただいています。できれば、先生方が部活動を行わなくてもよい環境に移行できればありがたいと思っています。ただ、文部科学省からはそのよう方針は出ていません。今年度から中学校は新しい指導要領になり、今までに謳われていなかった部活動について、教育課程外であるものの、地域連携や新たな取組みとして付け加えられています。ただ、制度や法の部分ではまったく述べられていません。部活動は、子どもの育成のためという見方もありますし、中小体連の大会のために学校の教員が対応してきました。例えば、青山中学校に体操部はありませんが、地域の指導者から指導を受け、全国大会まで行きました。ただ、学校顧問として先生が引率することになりました。こういった縛りが中小体連の大会にはあるため、大会自体の見直しがなければ現実的に困難だと認識しています。地域への移行について、人と物とお金がないと継続していくことは難しいと思います。

(加藤会長)

学校の視点からのご意見ありがとうございました。先生方は専門としている種目以外の部活動顧問を任されることがあると思いますが、先生方の経験として大事なことだと思います。ある新聞の記事で、自分の希望しない部活動顧問を任された場合に、相談できる組織として組合が発足したというものがありました。この記事については、部活動顧問の選任にあたり、人員欠如となるような恐れが窺えます。

(田中副会長)

生徒のモラル低下防止や関係者への理解等課題はたくさんあります。学校教育の一環としていた部活動を再構築するわけではなく、学校部活動を地域へ移行していく中で、先生方の負担をどう減らしていくかがポイントです。学校としてやりたいことの中長期的なプランを示すことが必要だと思います。そのプランに対し、地域社会がどこまで対応できるか、先生方にどこまで協力できるか議論することができます。

(吉戸委員)

本来、スポーツクラブというものは自分で会費を払い、目的を一緒にして

いる人達が集まって活動するところだと思います。お金を払う形が本来であるものの、学校部活動では払わなくてもよいというのが一般的な認識です。その理解はなかなか得られないのではないかと懸念しています。

(加藤会長)

国は、部活動の素晴らしさを認識しています。あくまで部活動をなしにする提言しないのはこういった理由があるからだと思います。半田市は先進的に5中学校区に総合型地域スポーツクラブが設立されており、他の自治体にはない強みがあります。また、市や教育委員会から具体的ではなくともある程度の指針が示されるとよいですね。学校では種目によっても温度差がありますが、地域移行の準備をしている指導者がいるとも聞いています。

(近藤委員)

様々な意見はあると思います。それぞれ地域で考え、できるところからやっ
ていこうという動きがみられるのではないのでしょうか。

(学校教育課指導主事)

委員の皆さんからいただいた課題や意見を集約した成果物の作成について、たいへんありがたく思っています。この場では、過去の中学校部活動がスポーツクラブへ移行したときの経験を踏まえて、課題や意見を共有することで次へのステップの土台を作っていく事ができればと思っています。この部活動地域移行については、日本の文化そのものにメスを入れるようなものです。教育課程外ということで、教員へ命令できない部分でありながら、子ども達にとって意義があるものであり、また、教員の中にもやりがいを感じている者もいます。そして、教員たちのボランティア精神によって成り立ってきた面も否めません。教員がやらなければならないことは増えてきており、負担が大きくなっているのは事実です。こういった背景のもと働き方改革の一環として、部活動の地域移行を進めなければならないという現状に直面しているという状況です。以前、資料として配付しました文部科学省のスケジュールが少しひとり歩きしてしまったと感じています。令和5年度に向けてという前提ではありますが、現在、他のあらゆる機関にお

いて検討がなされている段階です。ただ、方向性として大枠は3つ出ていると認識しています。1つ目は、地域移行後も引き続き指導したい教員を救うこと、2つ目は、授業の準備等教員本来の業務に力を注ぎたい教員を救うこと。3つ目は、子ども達のスポーツ活動を休日でも確保できる環境を地域でも考えていくことです。現在は、その中でも大会の引率や参加資格、費用面等課題が具体的にになっている部分をどう解決していくかという段階で、市教育委員会としても、引き続き検討しています。例えば、大会の引率も仕組みが変わらないことには、変えていくことは困難ですし、仮に半田市が休日の部活動を学校では行わないことにしたとしても、現段階では、多くの犠牲が生じてしまいます。今回の審議会の意見集約をもとに、国の指針や方向性、モデル地区等先進事例を参考にしながら、どのように進めていくか見定めていかなければならないと認識しています。今の各種中学校の大会の参加状況等洗い出して、調査していかなければならないと思っています。また、保護者や子ども達の想いを大切にしていきながら、理解を得て進めていく必要性はあると思っていますが、ガイドラインを整備し方針をしっかりと示していかなければならないことも大切だと認識しています。アナウンスについては長期的なスケジュールで進めていく必要があります。何年も前からアナウンスして、しっかり説明しながら、よいバランスを取りながら取り組んでいくことができればと思っています。

(スポーツ課主幹)

大会のあり方として、中小体連が全国大会を持っているところにメスが入らないと大会の引率という部分での課題解決は難しいかと思います。

(スポーツ課振興担当事務員)

単なる仕組みではなく、文化の部分に入っているぐらい部活動は高い位置づけにあることを改めて認識しています。そういったところにメスを入れるということは、一筋縄ではいかないものだと思います。教員の働き方改革が前提にあるものの、先生方がボランティアで培われてきたことは否定できるものではないので、どのようにバランスをとるかが重要に思います。国から

具体的な方針が示されればよいのですが、待っていて何もしないわけにも
いかないのでは、ある程度、方向性を見定めながら進めていく必要があると
感じています。

(近藤委員)

皆さんから様々な意見が出されましたが、我々スポーツクラブとしては、ま
ずはできることからやっていくという思いが強いです。モデルケースを作る
までいかなくとも、1年目でできたところを参考に次の年で実施していくよ
うな形で進めていくことができればと思います。それぞれのスポーツクラブの
想いの中で、焦ることなくひとつひとつ進めていくことが重要ではないでしょ
うか。

(加藤会長)

現在市内に5つの総合型地域スポーツクラブがありますが、それぞれ独
立した組織のため、会費はそれぞれ異なります。この会費について、トップ
ダウンで、ある程度平準化できないかという思いがあります。指導者への
報酬に充てる費用等を捻出する必要があります。

(スポーツ課長)

委員の皆さんより貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。近
い将来、答えを出す時期が来ているかと思えます。子ども達の被害を最
小限に抑えるため、受け皿となるようなスポーツクラブはじめスポーツ関係
団体が繋がり合いながら、人材、会場、費用等将来的に持続可能な仕
組みを行政と教育現場と地域で構築し、よい流れを作っていくことができ
ればと思います。引き続き、来年度以降もご指導・ご協力をいただけれ
ばと思います。

(事務局)

今回の資料1については、上層部まで共有し、教育委員会へ報告する
形でよろしいでしょうか。

(委員一同)

承知しました。

(健康子ども部長)

	<p>本日はありがとうございました。この部活動については、本来学校のやることではないものの、先生方は今まで尽力されてきたということで、教育委員会ではどう考えているのかという話になりがちではあります。こういった議論を重ねていくことによって、地域で子ども達にとってのスポーツのあり方をどう考えていくのか、どのようなやり方がよいかと議論が発展していくものと思います。学校側というよりも受け皿をどのように整えていくかということに行き着くのではないかと考えられます。皆様のご意見を活かし、来年度も引き続き議論していくことが出来ればと思っています。今後ともよろしくお願いします。</p>
【閉会】	<p>(加藤会長)</p> <p>本日も貴重なご意見ありがとうございました。次回のスポーツ推進審議会はいつ頃開催予定ですか。</p> <p>(事務局)</p> <p>次回は来年度になります。一部委員さんの交代があるかと思いますが、改めて開催の案内をしますので、よろしくお願いします。本日はありがとうございました。</p>
	17:00 (終了)